

平成19年12月 第96回

大野・勝山地区広域行政事務組合議会 定例会 会議録（第2日）

平成19年12月25日（火）

午前10時 開議

1. 議事日程

第1 議案第12号から議案第18号まで、認定第1号（8件）

第2 一般質問

2. 出席議員（11名）

1番	倉田源右エ門 君	2番	松村治門 君
3番	北川晶子 君	4番	北山謙治 君
5番	廣田与三次郎 君	6番	藤堂勝義 君
7番	川端義秀 君	8番	宮澤秀樹 君
9番	高岡和行 君	10番	松井治男 君
11番	畑中章男 君		

3. 説明のため出席した者

管理者	山岸 正裕 君	副管理者	岡田 高大 君
参事	松山 保雄 君	参事	石倉 善一 君
愛護センター 所長	山 範男 君	会計管理者	松本 孝治 君
秘書政策局長	山本 一郎 君	市長公室長	高木 和昭 君
事務局長	山田 誠一 君	事務局次長	北島 一巳 君

4. 書 記

書 記 長

鳥 山 昌 久

書記長補佐

苺 安 和 幸

書 記

山 岸 善 太 郎

5. 議事

(午前10時34分 開議)

○ 議長 (畑中章男君)

これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元にお配りしたとおりであります。

これより日程に入ります。

日程第1「議案第12号から認定第1号まで」の8件を一括議題といたします。

これより、質疑並びに日程第2「一般質問」をあわせ行います。

宮澤秀樹君の質問を許します。

宮澤君。

(8番 宮澤秀樹君 登壇)

○ 8番 (宮澤秀樹君)

おはようございます。宮澤でございます。

先日、福井の市長も決まり、ようやく福井県の窓口となる福井の駅周辺の環境整備に力を注げる体制になったかなと私も県民の1人として、また、この大野・勝山と協力し、一致団結していける日が整ったということで期待をしているところでございます。

質問に移らせていただきます。

大野・勝山地区広域行政事務組合、この規則の存在は理解しているつもりでございますが、時間とともに地方を取り巻く環境は変化していると考えるところから、質問させていただきます。

地球環境規模でのCO₂、環境問題が発生している今日、また、原油高騰による市民生活への影響、そして地方においては各産業、長期低迷が続く、こういう現状でございます。

また、一方では、両市の大野・勝山市の気候・風土に共通点が多いところから、今後は両市の互いの協力が何より大切ではないかと思っております。

そこで、広域行政としての取り組みについ

て質問をします。

産業について、広域で今後取り組まなければならない分野があると思いますが、今後の取り組み方をお尋ねします。

例えば、CO₂や原油高、あるいは化石燃料の対応としては、新エネルギーの開発が急がれております。開発には時間と経費がかかりますが、今まさに取り組むことが大切です。

このことは、政府の予算を見ても、来年度もかなりの額が追加されているはずでございます。

そして、このことはごみ処理、また一般家庭生ごみ処理等、また炉の耐用年数などプラス方向で考えられます。

気候的にも適している織物、繊維産業も低迷し、新しい産業の創出が急務ではないかと考えます。

気候・風土から農業に対しては、どうしても発酵の町であることは言うまでもないところですが、産地を生かした食品加工への取り組み等、考えられるのではないのでしょうか。

両市で取り組んでいると言えればそれまでではございますが、さらにその取り組みをより実効性あるものにするためにも、広域行政の存在感が大切ではないのでしょうか。

両市とも、観光課、あるいは商工課等、窓口となる担当課は存在いたしますが、広域行政としては窓口があるのでしょうか。お尋ねします。

次に、提案理由の説明で述べられておりましたが、去る9月25日、県知事に対し、4項目の要望活動を行っているということでございます。その内容と今後の管理者の対応についてお尋ねをいたします。

以上、よろしくご答弁ください。

○ 議長 (畑中章男君)

管理者、山岸君。

(管理者 山岸正裕君 登壇)

○ 管理者（山岸正裕君）
おはようございます。

ご質問の広域行政としての取り組みについてお答えをいたします。

まず、産業分野における広域連携の必要性についてであります。奥越の地場産業である繊維産業の不振、また米価の急激な下落による地域経済の低迷は、深刻な状況であると認識をしております。こうした中で、気候や風土が共通している大野市と勝山市が産業の活性化について連携ができる可能性を探っていくということは、大変有意義であるというふうに考えております。

現在、当広域行政事務組合の産業分野における事務は、広域観光分野だけであることから、ご指摘のように観光と農業等の連携については、現行の広域観光部門の枠を広げて、グリーンツーリズムやエコツーリズム等を研究するなど、今求められている観光ニーズに対応することは必要なことだと考えております。

また、新しい産業の創出として、具体的なご提案であります発酵文化の地域性や技術を生かした加工食品の開発につきましては、現在、経済産業省の補助事業である「ジャパンブランド育成支援事業」というのがありまして、この事業に両市の商工会議所を実施機関にした複数の民間企業の意欲的な取り組みが行われております。

これに大野市と勝山市は、両市ともに積極的な支援をしているところであります。

また、化石燃料に変わる新エネルギーの開発に関する使用済み食用油や生ごみを使った新エネルギーの開発につきましては、環境保全の観点からも重要と考えております。

当組合としては、組合自体がその事業に取り組むというのではなくて、民間企業がこのような新産業の創出意欲とアクションが起こ

るようなインセンティブを提供することが必要であると考えております。

いずれにいたしましても、当組合は大野市・勝山市2市による事務組合であることから、新エネルギーについても、また発酵食品の取り組みのように、両市の同意に基づく連携が必要であると考えております。当組合に担当窓口を置くということについては、まず、この取り組みについて、大野市・勝山市の考え方を確認して、そして進めていくことが肝要であるというふうに今現在は考えております。

次に、去る9月25日に福井県知事に対して行いました4項目の要望の内容と今後の対応について申し上げます。

要望項目は、奥越地域全体の振興に直結する基盤整備として、「中部縦貫自動車道の早期建設」、「広域観光等幹線道路の整備促進」、そして県内養護学校の未整備地域として「奥越養護学校の早期開設」、また奥越地域の文化の源泉と誇りの継承として「世界遺産登録推進と国史跡白山平泉寺の整備支援」の4項目に絞り込みをいたしました。

まず、中部縦貫自動車道につきましては、去る11月に公表された国土交通省の中期計画素案の中で、「真に必要な道路」として認められたことから、「永平寺大野道路」の整備計画どおりの促進とともに、「大野油坂道路」の整備計画路線への格上げに向けて、整備に必要な財源の確保の要請とあわせ、両市とともに今後も国や県に対し、強く働きかけてまいりたいと考えております。

次に、広域観光等幹線道路といたしまして、一般国道157号及び158号及び416号の改良促進、主要地方道では、篠尾勝山線の交通不能区間の解消、松ヶ谷宝慶寺大野線、大野勝山線の改良促進の要望をいたしております。

これらは地域の動脈であり、奥越地域のす

ぐれた観光の周遊化に不可欠な道路であります。また整備が不十分な現状を説明し、知事には計画的な整備促進にご理解をいただいたと考えており、今後とも両市と共同しながら働きかけてまいります。

次に、圏域の特別支援教育の充実と保護者の負担を軽減するため、奥越養護学校の早期開設を働きかけておりますが、県としては関係する各界からの意見の聴取を進めており、できるだけ早くその方向性を出していきたいとのことでありまして、今後とも粘り強くその必要性を訴え、県が早期の結論を出すよう働きかけてまいりたいと考えております。

次に、「霊峰白山と山麓の文化的景観」の世界遺産の登録につきましては、今月20日に文化庁に対し、福井県と勝山市に大野市や小松市、高山市、白川村も新たに加わって、国内暫定リスト掲載へ向けて、共同提案を行ったところでございます。

この「白山と山麓の景観」の福井県側資産の中核に位置するのが国史跡白山平泉寺であり、本県側資産の価値を高める調査支援等は引き続き県に要望するとともに、文化庁最大の補助事業であります「史跡等総合整備活用推進事業」の平成20年度からの箇所付を目指し、関係自治体とともに働きかけてまいります。

以上であります。

○ 議長（畑中章男君）

宮澤君。

○ 8番（宮澤秀樹君）

要望活動は、当然、やっていかないかということで、私も理解をしておりますが、最初の質問の中で、今、管理者はジャパンプランドのことを述べられたと思うんですが、これは12月の確か3日だと思うんですね。隣の文化会館ですかね。大勢の人が、私も実は夜7時からだったと思うんですが、小泉先生の

お話を聞きました。この中で何人くらいの管理者の方々、講演に行かれましたかね。非常に時間的に7時からですから、余裕がなかったかもわかりませんが、この話は非常に私はよかったですと思います。そして、出席された方々が大変満足な顔で納得をされて帰られたと私は思っております。

非常に両市とも産業が苦しんでいる中で、やはり早目に手を打つ。そして要望活動へ、いろんな道路の整備等に対して要望しておりますから、その要望に対応するためにも、やはり産業の開発というのも急いでやるべきやと私は思っております。

そこで、この両市でやるということは、大変、庁が、庁というのは役所のことですが、2つあってもなかなかできないのではないかなと思います。これを1つにした方がより早くいくわけですね。管理者としてやっぱり両市の合併が先かなと私ちょっと思ったんですが、管理者どうその辺思いますか、ちょっと見解を聞きたいと思います。

○ 議長（畑中章男君）

山岸君。

○ 管理者（山岸正裕君）

合併の話をするべきですか。それとも新しい事業に取り組むということをして2市が2市ではなくて広域で取り組むという話をするべきですか。どちらの方から質問の回答、答弁をさせていただいたらよろしいですか。

○ 8番（宮澤秀樹君）

作業をしようと思うと、いろいろあるので、今お話を聞いていますと、なかなか事務組合でやらなきゃならないという規則の中で、困難であると。従って、そうすると合併の方が先かなと私ちょっとそんなことを思ったので、合併についてはどうかな。

○ 管理者（山岸正裕君）

それは、一般質問の項目の中に入っており

ませんので、事前通告制の趣旨から言いますと、ちょっと今、お答えしかねますね。

○ 議長（畑中章男君）
宮澤君。

○ 8番（宮澤秀樹君）

それでは、今、この場所でというのはなかなか難しいかもわかりませんが、もう一つ、養護学校について、私の実は身内も非常に長年福井の方へ通っておりまして、もう何年もたちますから、1年生が5年生になりということで、実は親も苦しんで、家族も苦しんでいるところでございます。そういった中で、非常に早く作ってほしいんだということを知っておりますので、用地等いろいろな問題もあると思うんですけども、その目途というか、これは合併、学校の再編とか統合とか、いろんな部分がそれから県にいたしましても、県立高校の問題とかいろいろ抱えていると思うので、その目途をどういうふうと考えていらっしゃるのか、ちょっとお聞きしたい。

○ 議長（畑中章男君）
山岸君。

○ 管理者（山岸正裕君）

これは、県立高校でありますので、県の裁量権。県の裁量というものがどういう形で出てくるかということが最大のキーポイントであります。そういう意味で、県は高校の再編問題については、今年度中には方向性を出したいというふうに聞いております。

したがいまして、来年の3月31日までには、何らかの方向性が出る。その中でこの奥越地域に奥越養護学校をつくるということについても、はっきりした方向性が出てくるというふうに考えております。それに向けて、我々も鋭意努力をしております、そのようなニュアンスを今、受け取っております。

○ 議長（畑中章男君）

以上で、宮澤秀樹君の質問を終結いたします。

これにて、質疑並びに一般質問を終結します。

これより討論に入ります。

（「討論なし」の声あり）

○ 議長（畑中章男君）

これにて討論を終結いたします。

これより、ただいま議題となっております議案第12号から認定第1号までの8件を一括して採決いたします。

お諮りいたします。これら8件について原案のとおり可決・承認・認定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○ 議長（畑中章男君）

ご異議なしと認めます。

よって、これら8件は原案のとおり可決・承認・認定されました。

以上で、本定例会の付議事件はすべて議了いたしました。

これをもちまして、平成19年12月第96回大野・勝山地区広域行政事務組合議会定例会を閉会いたします。

ご苦労さまでございました。

（午前10時52分 閉会）